

【 投薬 】

５１５ プロトンポンプ・インヒビター（難治性逆流性食道炎）の投与量について

《令和７年４月３０日》

○ 取扱い

難治性逆流性食道炎に対するプロトンポンプ・インヒビター（ＰＰＩ）【内服薬】の初期治療量の継続投与は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

逆流性食道炎に対するプロトンポンプ・インヒビター（ＰＰＩ）【内服薬】による治療は、初期治療量を最長８週間まで行うこととされている。また、再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法について、多くのＰＰＩ製剤の添付文書には、症例に応じ、初期治療量の半量～初期治療量を投与する旨示されており、難治性逆流性食道炎に対する当該医薬品の初期治療量の継続投与は有用と考えられる。

以上のことから、難治性逆流性食道炎に対するプロトンポンプ・インヒビター（ＰＰＩ）【内服薬】の初期治療量の継続投与は、原則として認められると判断した。